

有 度 地 区 カ ル テ

データについて

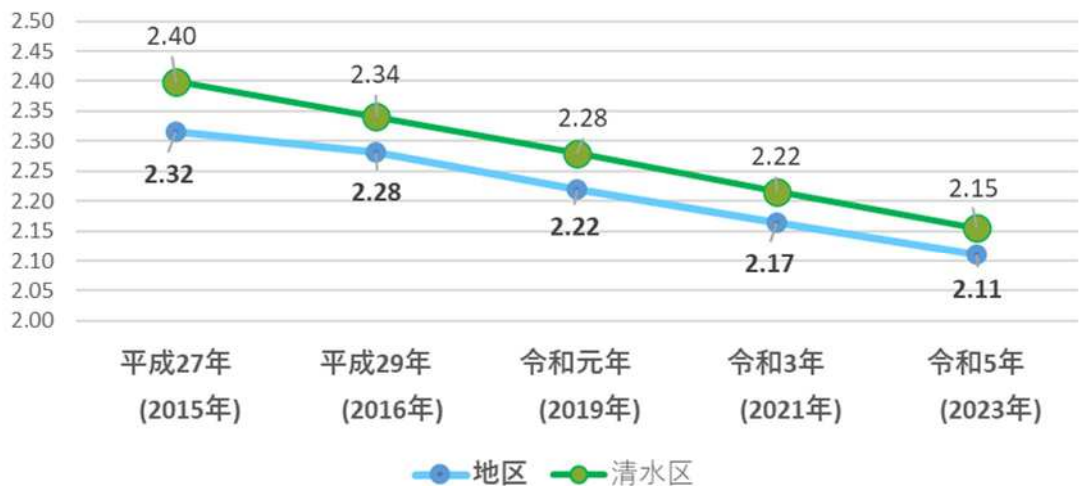
- ・カルテは住民基本台帳と自治会加入統計を利用しています。
- ・住民基本台帳は各年の3月31日の数値、自治会加入数は各年の4月1日の数値です。
- ・町名は住民基本台帳を採用しているため、自治会名と一部異なる場合があります。

有度地区の人口特性 令和5年3月 35,415人 16,778世帯 2.11人/世帯

●人口・世帯数の推移



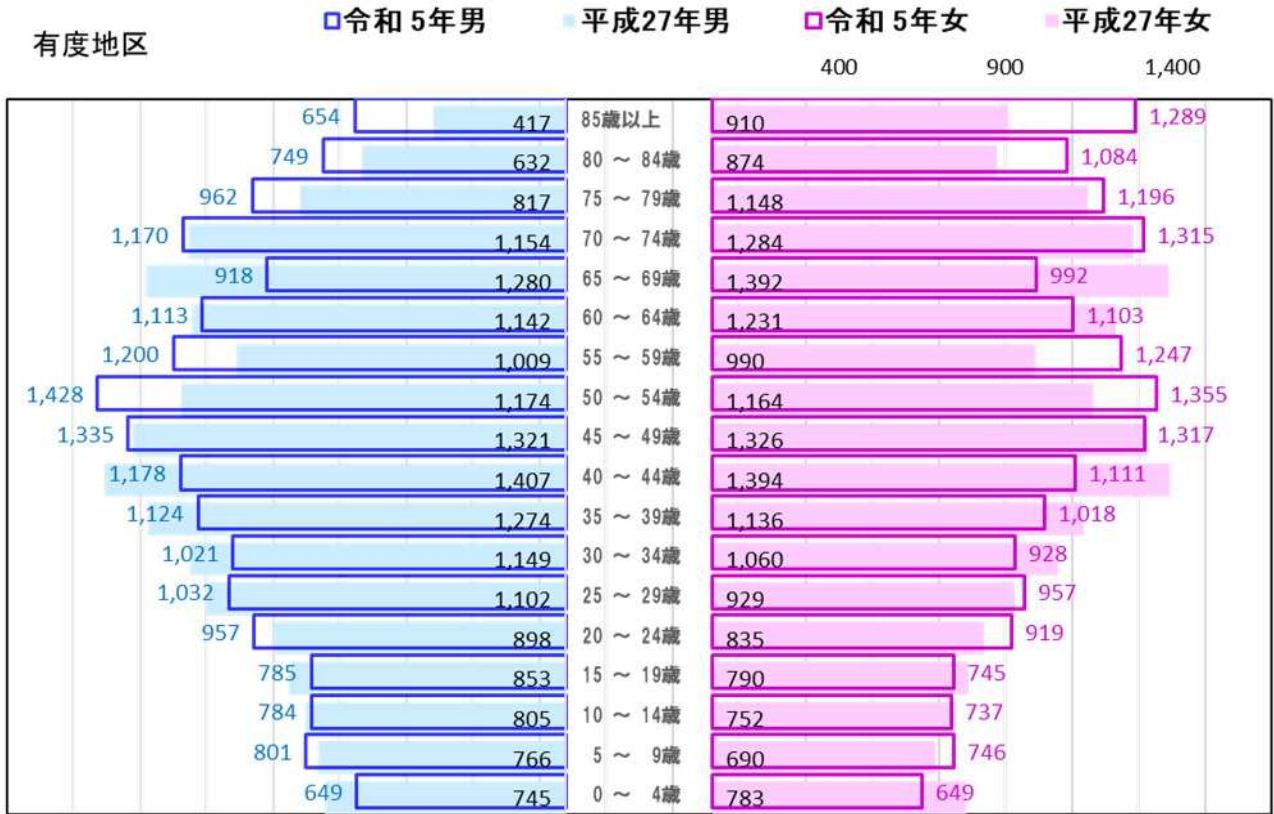
●一世帯当たりの人口推移



●65歳以上の高齢者を支える生産年齢層 (15-64歳)

区分	平成27年 (2015年)	令和5年 (2023年)
地区	 2.23人	 2.12人
静岡市	2.16人	1.88人
清水区	1.98人	1.71人

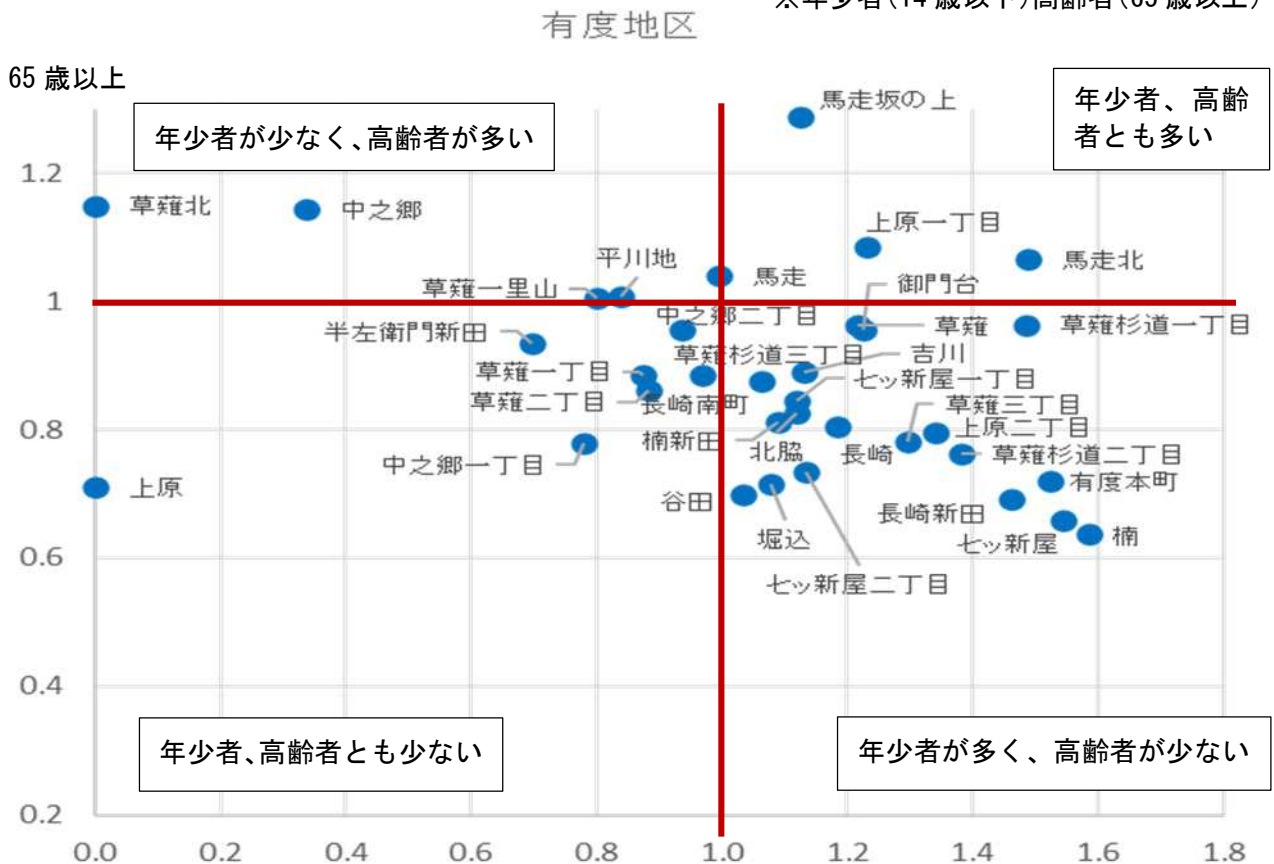
●人口ピラミッド【平成27年（2015年）と令和5年（2023年）の5歳階級別男女別構成】



1,700 1,500 1,300 1,100 900 700 500 300 100

●町別の14歳以下と65歳以上の割合分布（清水区の平均値を1とした場合）

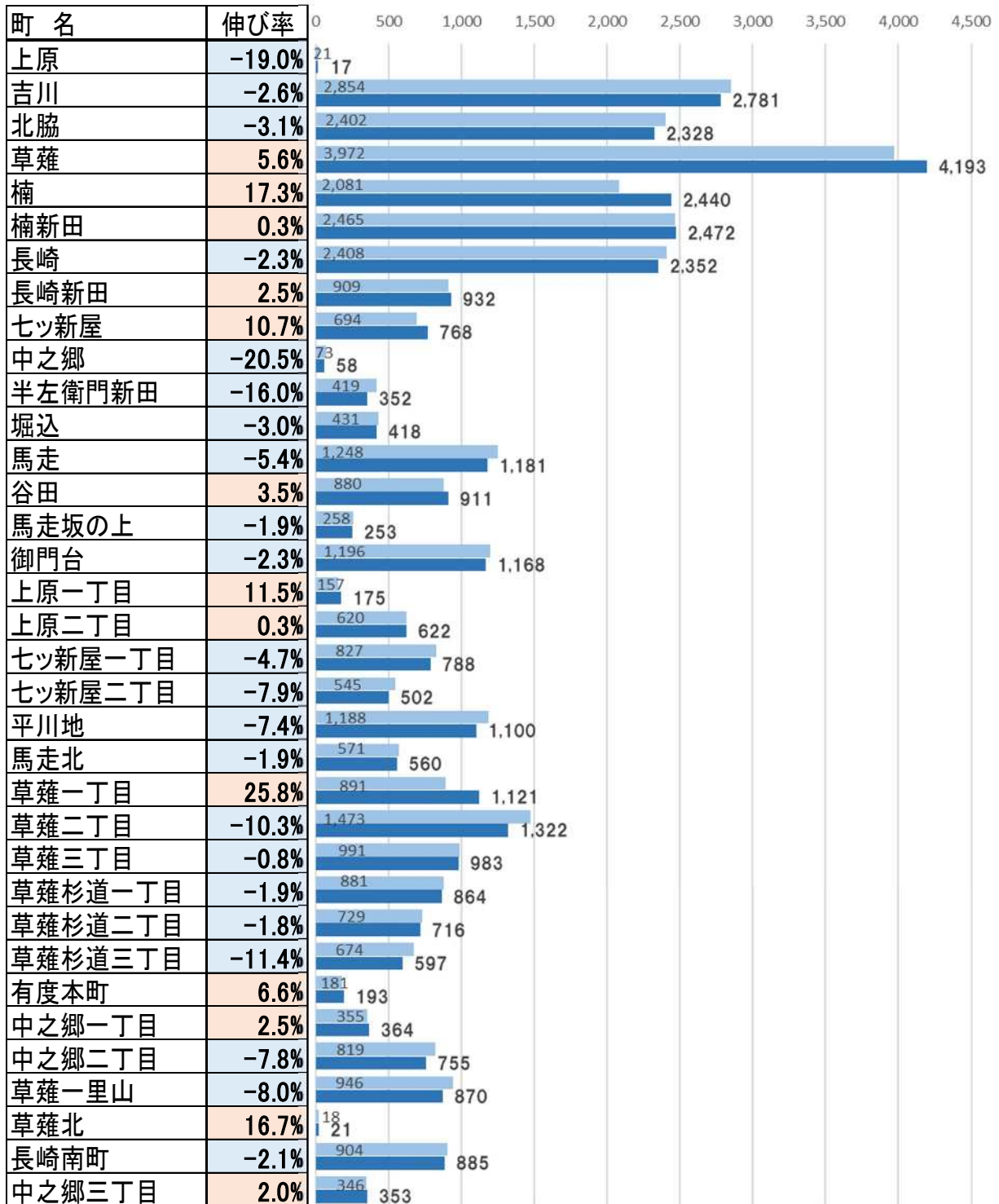
※年少者(14歳以下)高齢者(65歳以上)



●町別の伸び率と人口推移

【平成 27 年（2015 年）と令和 5 年（2023 年）の比較】

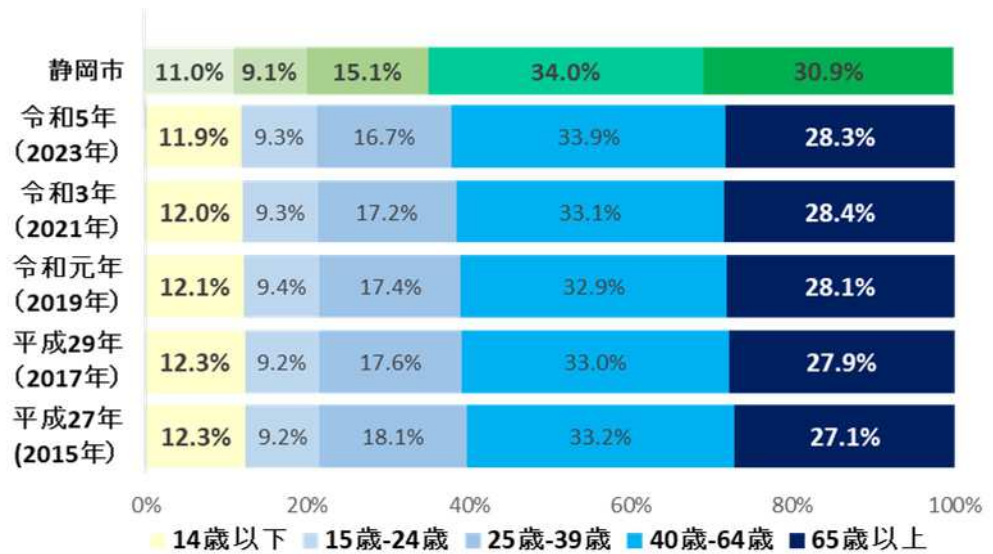
人口推移グラフ（上段平成 27 年 下段令和 5 年）



		人 口	
		平成 27 年 (2015 年)	令和 5 年 (2023 年)
有度地区	-0.03%	35,427	35,415
静岡市	-4.6%	713,564	680,913

●町別人口区分別割合

・年齢5区分別人口割合の推移



※15-24歳は高校から社会人(大学修士課程含む) 25-39歳は社会人(大学博士課程含む)

・令和5年人口3区分別：

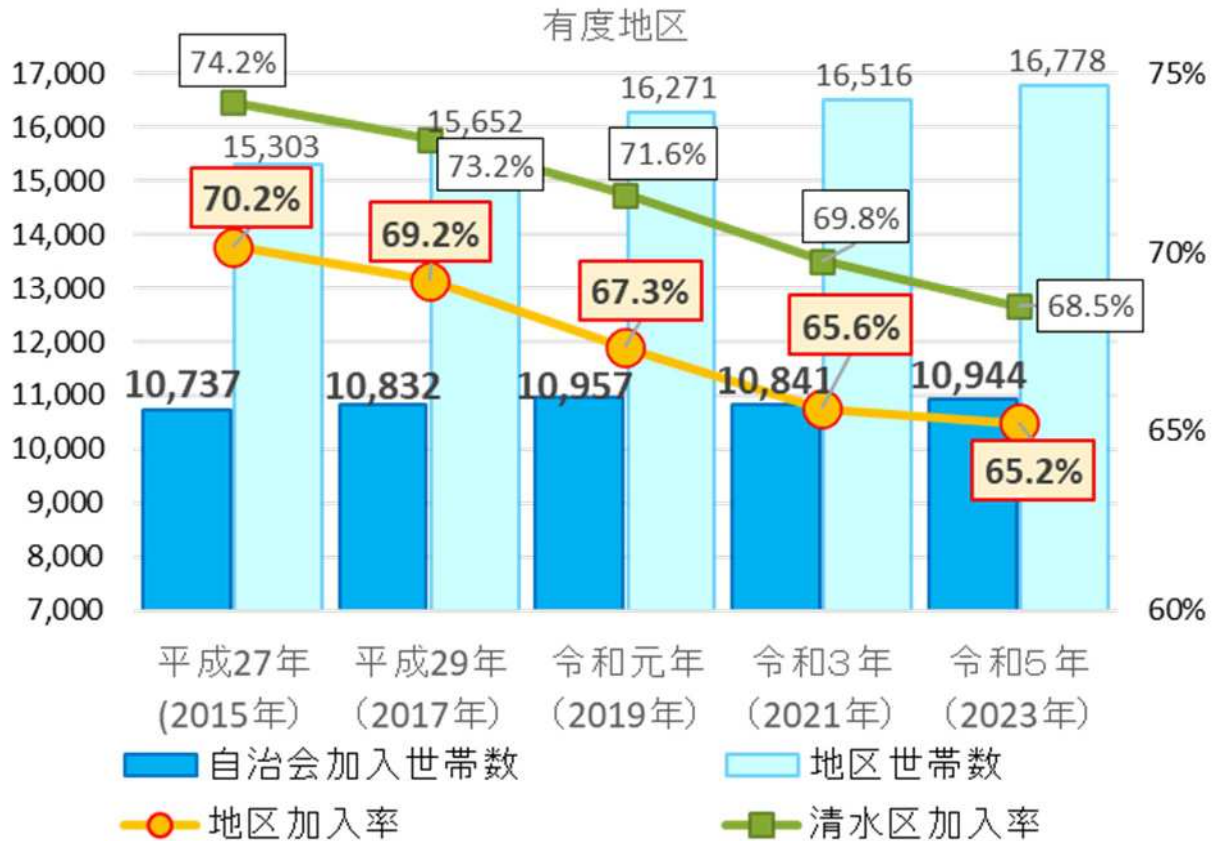
市の割合より
青字 14歳以下の割合が低い場合
赤字 65歳以上、75歳以上の割合が高い場合

町名	令和5年階級別割合		
	14歳以下	65歳以上	そのうち75歳以上
上原	0.0%	23.5%	11.8%
吉川	11.5%	29.5%	15.6%
北脇	11.4%	27.4%	14.9%
草薙	12.4%	31.9%	20.5%
楠	16.2%	21.1%	10.7%
楠新田	11.1%	26.9%	14.5%
長崎	12.1%	26.7%	14.8%
長崎新田	14.9%	23.0%	13.5%
七ツ新屋	15.8%	21.9%	12.4%
中之郷	3.4%	37.9%	17.2%
半左衛門新田	7.1%	31.0%	12.2%
堀込	11.0%	23.7%	14.8%
馬走	10.2%	34.5%	18.9%
谷田	10.5%	23.2%	13.3%
馬走坂の上	11.5%	42.7%	31.2%
御門台	12.5%	31.7%	20.3%
上原一丁目	12.6%	36.0%	20.6%
上原二丁目	13.7%	26.4%	17.0%
七ツ新屋一丁目	11.4%	28.0%	15.4%
七ツ新屋二丁目	11.6%	24.3%	12.7%
平川地	8.5%	33.4%	18.9%
馬走北	15.2%	35.4%	20.5%
草薙一丁目	8.9%	29.3%	15.9%
草薙二丁目	9.0%	28.6%	18.5%
草薙三丁目	13.2%	25.9%	14.6%
草薙杉道一丁目	15.2%	31.9%	18.8%
草薙杉道二丁目	14.1%	25.3%	15.1%
草薙杉道三丁目	9.9%	29.3%	18.1%
有度本町	15.5%	23.8%	14.5%
中之郷一丁目	8.0%	25.8%	14.3%
中之郷二丁目	9.5%	31.7%	19.3%
草薙一里山	8.2%	33.3%	18.5%
草薙北	0.0%	38.1%	23.8%
長崎南町	10.8%	29.0%	17.1%
中之郷三丁目	14.4%	9.6%	5.4%
有度地区	11.9%	28.3%	16.3%
清水区	10.2%	33.2%	18.7%
静岡市	11.0%	30.9%	17.2%

●自治会加入状況

令和5年

加入率	地区	65.2%	加入世帯数	10,944 世帯
	清水区	68.5%	住民基本台帳世帯数	16,778 世帯



有度地区コメント

- ・人口は停滞傾向を示し、世帯数は増加傾向にあります。世帯人数も減少していることから、単身世帯や小家族化が進んでいるようです。
- ・人口減少地区がほとんどで、少子高齢化傾向にあります。平成27年と令和5年を比べて10%以上増加している地区(楠、七ツ新屋、上原一丁目、草薙一丁目、草薙北)や微増する地区8地区も見られます。
- ・令和5年の65歳以上を1人支える生産年齢(14歳から65歳)が市の1.9人より多い2.1人ですが減少傾向にあり、若い世代が地区や自治会活動等への負担が増えることが見込まれます。
- ・さらに、自治会の加入率は市の値69%より低い66%で年々減少傾向が見られ、40歳から64歳の自治会活動等で中心的に活躍を期待される層の減少も見られます。

有 度 地 区

地名のゆかり

大化の改新（646）の後、駿河国が7つの郡に分けられましたが、既に、その中に有度郡の名があります。また、奈良時代に栄えた平城京の跡から「駿河国有度郡嘗見（今の馬走）調堅魚拾一斤拾両」と書かれた荷札が発見されていることから、当時ここに住んでいた人たちが特産品の魚を税として収めていたことが分かります。

そのころの有度山ろくの北側から西側一帯にかけての地域で、海に近く、入江があったと想像されています。このため「有度」（昔はウトと発音）の語源は、「海門(うなと)」だろうとされています。また、「ウトウ」は凹状の土地を示す言葉ですから、谷の多い有度山の地形から生じた地名ではないかとも言われています。

世の中が乱れた平安中期以降は、入江一族の勢力がこの地に及び、彼らは吉川、渋川などその土地にちなんだ姓を名乗り、館を造りました。中でも吉川館は大きなものだったようです。



10世紀の清水の郡と郷

吉川館と吉川八幡神社

鎌倉時代、入江一族などの駿河武者は、幕府の重要な地位を占め、数々の武勲をたてていました。吉川氏も入江一族ですが、その館が現在の小糸製作所の北およそ100mの所にありました。この吉川館は文治2年（1186）ごろ建てられたもので、在地武者から源家の御家人となった吉川氏が、正和2年（1313）に安芸、周防（現在の広島県、山口県）へ移住するまで、約130年間住んでいたようです。これは南北240m、東西120mの単堀単郭式の館で、周りは幅13mの堀で囲まれ、大手門は巴川に面した北側にありました。館の東側には刀鍛冶の屋敷が、西側には重臣の屋敷があり、その跡地は、今でも鍛冶屋敷、久兵衛屋敷と呼ばれています。

また、吉川氏が鶴ヶ岡八幡宮の祭神を勧請して祭った吉川八幡神社が、狐ヶ崎北側にあり、館跡には「吉川氏発祥の碑」が建てられています。

吉川家代々の氏神であった吉川八幡神社の石鳥居には、吉川家の由来を誌した寛政元年の銘文が彫り込まれていました。昔はこの石鳥居に高貴の方の筆による額をあげてありました。その前を馬や籠に乗ったまま通ることは禁じられていました。

現在の本殿・拝殿は、昭和20年の清水市空襲の余波を受け、焼夷弾のため消失したので、昭和22年に村民有志の寄進により再建されたものです。



吉川氏発祥の碑

十七夜山 千手寺

本尊は伝弘法大師作の千手観世音菩薩です。当時は元禄5年3月、黄檗宗の僧が真言宗の旧跡を再興し、師の天頑浄然和尚を請じて開山とし、自らは二世となりました。宝永5年6月黄檗宗本山万福寺より末寺票を下付されました。その後、本山万福寺開山大光普照国師（隠元禅師）を勧請開山としました。

境内の鎮守堂は十七夜星と称し、本尊は麻機村より移祀した黒色木根の不動尊です。境内に曾我兄弟が植えたという太郎松、次郎松と名付けられた大きな松の木がありましたが、現在は伐採されて跡形もありません。



千手寺

有度ナス

「有度ナス」は通常のナスより一回り大きく、大きさは20cm～25cm程度。皮が薄くて柔らかく、甘みがあるのが特徴です。

有度地区で栽培されていることからこの名前が付き、地元市場に出荷されています。

皮が柔らかいため漬け物にしてもとても美味しく、例年3月の上旬から7月中旬に出荷されます。

「日本武尊（やまとたけるのみこと）と 草薙の剣（つるぎ）のお話し」

第12代天皇には小碓（おうすの）尊（みこと）、のちに日本武尊（=倭建命）と呼ばれる皇子がおりました。西の地方を治め、ようやく朝廷に戻った尊でしたが、落ち着く間もなく、今度は蝦夷征伐ゆきを命ぜられてしまいます。

「父は私に早く死ねばいいとお思いなのではないでしょうか」

わずかな従者とともに伊勢の皇太神宮をお参りの折、そこに仕える叔母の倭比売命（やまとひめのみこと）に会い、尊はその悲しい心を訴えました。すると叔母は尊を慰め励まして、神宝の草薙剣と火打ち石を授けました。

さて、東征（とうせい）の旅の途中、尊は駿河の国で災難に遭います。当時の賊が尊をあざむき、こう言いました。

「この野には多くの鹿がおります。その息はまるで朝露のよう、足は林のようです。どうか狩りをしてください」

しかし、尊が野原に分け入ると、賊は四方から野火を放ってしまいました。その時はじめて騙されたことを知った尊は、草薙剣で草をなぎはらい、火打ち石で向かい火をつけ、なんとか難を逃れました。

そして、やがて賊を討ち亡ぼし、当地を平らかにすると、尊はあらためて東へと、その歩を進めていくのでありました。

この伝説の舞台とされる有度山には、日本武尊をまつる草薙神社が残されています。さらに、これに連なる名勝地日本平もまた尊の名にちなむと言われています。

